

★こちらもおすすめ★

書名	著者名	出版社	出版年
そらまめくんのベッド	なかやみわ/さく・え	福音館書店	1999年
こすずめのぼうけん	ルース・エインズワース/作 石井桃子/訳 堀内誠一/画	福音館書店	1977年
はっばのおうち	征矢清/著 林明子/画	福音館書店	1989年
もりのなか	マリー・ホール・エッツ/ぶん・え 間崎ルリ子/訳	福音館書店	1963年
くまのコールテンくん	ドン・フリーマン/作 松岡享子/訳	偕成社	1975年
おだんごばん (ロシア民話)	せたていじ/やく わきたかず/え	福音館書店	1966年
かちかちやま	おざわとしお/再話 赤羽末吉/画	福音館書店	1988年
みんなうんち	五味太郎/さく	福音館書店	1977年
歯がぬけた	中川ひろたか/作 大島妙子/絵	PHP研究所	2002年

発行：宮崎県立図書館
 監修：(福)芳雄会 図書顧問・日本女子大学 非常勤講師 伊藤 明美
 協力：子うさぎ文庫 主宰 坂下 実千代
 おはなしころりん 小夏 美由紀
 宮崎県幼稚園連合会 副会長 坂本 美代子
 宮崎学園短期大学 非常勤講師 佐藤 由紀枝
 延岡市立図書館 湯川 拓未
 都城市立図書館 外山 敦美
 表紙デザインアドバイザー 木代 晃介

・本誌に使用している絵本の表紙画像は出版社の許可を得て、掲載しております

えほん

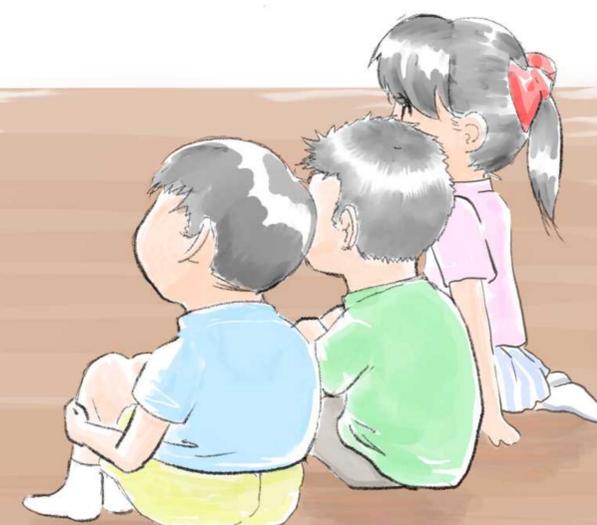
の

とびら

3・4・5さい

読み聞かせはじめのいっぽ

～読み聞かせボランティア編～



宮崎県立図書館

やってみよう！おはなし会

おはなし会までの準備

1 本を選ぶ

- 子どもたちの発達の段階をふまえて選ぶとよいでしょう。発達や聴く力には個人差がありますので、みんなが楽しむためには、背伸びをせず、時には一段階下の絵本を選ぶのもよいでしょう。

★発達の段階の目安★

年少（3歳～4歳）

- ・成長のいちじるしい時期
- ・言葉の力がつき絵本の中の言葉を読むこともある
- ・絵を細部まで見ることができるようになる
- ・ストーリーのある絵本も楽しめる

年中（4歳～5歳）

- ・好奇心がいっぱいの時期
- ・擬音やくりかえしを喜んだり、絵本に出てきたことを遊びにいれたりする
- ・空想と現実をいったりきたりすることができるようになる

年長（5歳～6歳）

- ・個性がはっきりしてくる時期
- ・文字や数字に興味をもち始める

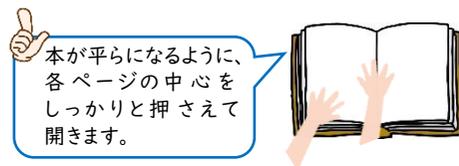
- リズミカルで心地よい言葉の響きを味わえる本を選ぶようにしましょう。
- 絵に対して文章が多すぎると、話の先を想像する楽しみをなくしたり、話の流れについていくことを妨げたりするので気をつけましょう。
- まずは、長い間読み継がれている定番の絵本から選ぶことをおすすめします。

2 読む順番（プログラム）を考える

- テーマや季節を考慮しながら、まず中心となる絵本を選びます。それに創作絵本、昔話、科学絵本など、いくつかのジャンルを組み合わせる構成します。
- 導入やアクセントにわらべうたや手あそびなどを入れるとよいでしょう。手あそびは、集中力がとぎれた時にも手軽に使えて便利です。

3 練習をする

- ① 本に開きぐせをつけておくと、持ちやすく、子どもにも絵がよく見えます。



- ② 実際に子どもたちに見せるように本を持ち、声に出して練習します。片手で本の中心を下からしっかりと持つと本がぐらつきません。指で絵をかくさないよう気を付けましょう。かかる時間も確認しましょう。
- ③ ページは手前から向こう側のページへめくります。表紙、見返し、裏表紙などもしっかりと見せましょう。
- ④ ページをめくったら、1拍おいてから読み始め、聞き手が絵を見る時間をとるとよいでしょう。
- ⑤ 声色を大げさに変えたり身ぶり手ぶりを加えたりせず、心をこめて、ゆっくりはっきりと読みましょう。演じて読むと、子どもは絵ではなく読み手に注目し、絵本の世界を楽しめなくなってしまいます。

わたしのワンピース

にしまきかやこ／え・ぶん
こぐま社 20×22 cm 1969年

空から落ちてきた真っ白な布で、うさぎはワンピースをつくって散歩に出かけます。すると花畑や雨、草の実など周りの景色が次々にワンピースのように。「わたしににあうかしら？」と問いかけながら読みましょう。女の子に限らず、男の子も喜んでくれる絵本です。



年少

ちいさなねこ

石井桃子／さく 横内襄／え
福音館書店 20×27 cm 1967年

子ねこが、母ねこの見ていない間にひとり外へ。でも、車にひかれそうになったり、大きな犬に追いかけられたり。広い世界、冒険へと向かう子どもの心と、全てを包み込む母の愛情が感じられる絵本です。物語絵本の入口におすすめです。



年少

ぐりとぐら

中川李枝子／さく 大村百合子／え
福音館書店 20×27cm 1967年

のねずみのぐりとぐらは、森で大きなたまごを見つけました。ふたりは「ばくらのなまえはぐりとぐら」とうたいながら大きなカステラをつくります。リズムよく、明るく軽やかな気持ちで読みましょう。シリーズに『ぐりとぐらのえんそく』など。



年少

どうぞのいす

香山美子／作 柿本幸造／絵
ひさかたチャイルド 25 cm 1981年

うさぎはいすを作って「どうぞのいす」と看板を立てました。ろばは、いすにどんぐりをおいてひと休み。そこへ動物たちが、次々にやってきては「からっぽになってはおきのどく」とプレゼントを残します。ゆっくりページをめくり、くりかえしの言葉もていねいに読みましょう。



年少

ちいさなヒッポ

マーシャ・ブラウン／さく うちだりさこ／やく
偕成社 25 cm 1983年

かばの子ヒッポは群れの中ではいつも安全。お母さんには「グワオ」と鳴くのを忘れないように、と言われていました。でも、お母さんが寝ている間に遊びに出かけ、大きなワニにおそわれてしまいます。迫力のある絵をじっくりと子どもたちに楽しんでもらいたい絵本です。



年中

どろんこハリー

ジーン・ジオン／ぶん マーガレット・ブロイ・グレーム／え
わたなべしげお／やく 福音館書店 31 cm 1964年

ハリーは黒いぶちのある白い犬。おふろが大嫌いで、ブラシをかくして逃げ出します。外で遊んで、どろんこになったハリーに、家族はだれも気づきません。ゆっくりとページを見てもらうことで、ハリーの気持ちが伝わります。シリーズに『うみべのハリー』など。



年中

アンガスとねこ

マージョリー・フラック／さく・え 瀬田貞二／やく
福音館書店 17×25 cm 1974年

犬のアンガスは、家にやってきた子ねこがふしぎでなりません。追いかけて見つけたり、でもそのたびに逃げられてしまいます。読んであげると、子どもたちはねこを見つけて、アンガスに教えようとします。シリーズに『アンガスとあひる』など。



年中

はじめてのおつかい

筒井頼子／さく 林明子／え
福音館書店 20×27 cm 1977年

みいちゃんはお母さんに頼まれて、生まれてはじめておつかいに出かけます。でも、道で転んだり、お店で声が小さくて気づいてもらえなかったり。やっとの思いで牛乳を買うことができましたが……。ドキドキしてほっとする、子どもの共感を呼ぶ絵本です。



年中

ぐるんぱのようちえん

西内ミナミ／さく 堀内誠一／え
福音館書店 20×27 cm 1966年

ぞうのぐるんぱは、働きにでたものの、大きすぎるビスケットを焼いたり、大きすぎる靴をつくったり失敗ばかり。でも、ぐるんぱはそれをつかってようちえんを開きます。遊び心のある名前や、ことばのくりかえしの部分は強弱をつけて読むとよいでしょう。



年中

おおきくなるっていうことは

中川ひろたか／文 村上康成／絵
童心社 21×23 cm 1999年

どんどん大きくなる子どもたちに向かって私たち大人は、「大きくなったね」と言わずにはいられません。小さい子どもたちの毎日は大きくなる喜びでいっぱいです。体の変化、できることがふえる変化、心の変化など、大人もいっしょに考えたいテーマです。



年長

しっぽのはたらき

川田健／ぶん 藪内正幸／え
福音館書店 26 cm 1972年

サル、キツネ、ウシ……。動物のしっぽの働きをわかりやすく紹介した絵本です。クイズ形式なので、聞き手と楽しみながら読むことができます。表紙のしっぽが最初の動物につながっているの、「なんのしっぽでしょう?」と問いかけて、読み始めるとよいでしょう。



年長

やさいのおなか

きうちかつ／さく・え
福音館書店 19 cm 1997年

「これなあに」と、モノクロの断面図。次にカラーの全体図がでています。モノクロの絵をじっくり見せて好奇心をふくらませ、間をとってめくると楽しい発見があります。タマネギ、キュウリは、意外にわからない子もいます。シリーズに『くだものなんだ』など。



年長

中をそぞうしてみよ

佐藤雅彦、ユーフラテス／作
福音館書店 26 cm 2012年

なんのへんてつも無い木のいす、中にきぎが何本使われているかな? 貯金箱の中、赤青鉛筆の中、ボールペンの先はどうなっている? 目に見えない部分をX線写真で透視して見せる絵本です。子どもたちに中を想像してもらってからページをめくりましょう。

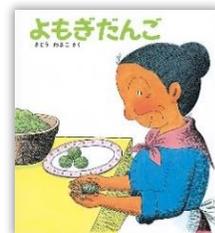


年長

よもぎだんご

さとうわきこ／さく
福音館書店 26 cm 1987年

ばばあちゃんは、子どもたちと春の野原によもぎつみに。よもぎだんごの作り方だけでなく、春の野草の見つけ方なども教えてくれる絵本です。たくさん野草は、指さしながら読むとわかりやすいでしょう。シリーズに『ばばあちゃんのアイスパーティ』など。



年長

まほうのコップ

ふじたちえ／原案 かわしまとしお／写真 はせがわせつこ／文
福音館書店 23cm 2012年

まほうのコップというけれど、たねもしかけもありません。水を入れたコップの後ろにものを置くと、あらふしぎ。きゅうりは、バナナは、しめじは、何に見えるかな？擬態語も楽しい、小さい子どもから楽しめる写真絵本です。読んだ後は、ぜひ実験してみてください。



年少

アリからみると

桑原隆一／文 栗林慧／写真
福音館書店 26 cm 2004年

アマガエル、イナゴ、カブトムシ、人間から見ると小さな生き物も、アリの目から見ると……。夏の読み聞かせにぴったりの絵本です。ページいっぱいの迫力ある写真を子どもたちがじっくり見る時間をとりましょう。



年中

つばきレストラン

おおたぐろまり／さく
福音館書店 21×24 cm 2021年

冬に花開くつばきは小鳥のすてきなレストラン。雪の降る日も小鳥たちが群がるそのわけは？画面いっぱいに美しい風景が広がります。読んだあと、「レストラン開店してるかな」と近くの道や公園でつばきをさがしたくなりますよ。



年中

びっくりまつぼっくり

ただたえこ／ぶん ほりかわりまこ／え
福音館書店 23 cm 2010年

男の子が拾ったまつぼっくりは、雨の日にはしぼんで、乾くと広がりました。まつぼっくりのさまざまなひみつが描かれた絵本です。なぞを解いていくような気持ちで読みましょう。最後のまつぼっくり手品を小道具として用意すると、さらに楽しくなりますよ。



年中

ダンゴムシみつけたよ

皆越ようせい／写真・文
ポプラ社 21×26 cm 2002年

子どもに身近なダンゴムシ。あまり知られていない食事のようすや敵から身を守るところなど、迫力のある拡大写真でリアルに紹介します。虫好きな子どもたちが写真から発見できるようにじっくり読みましょう。



年中

お月さまってどんなあじ?

ミヒヤエル・グレイニエツ／絵と文 いずみちほこ／訳
セーラー出版(2013年より「らんか社」へ社名変更) 30 cm 1995年

お月さまをかじってみたいと、カメ、ゾウ、キリンなどが次々に背中について手をのびします。お月さまはそのたびに、ひょいっと逃げますが、ついにねずみがパリッ!動物のセリフかお月さまのセリフか、意識して読むとよいでしょう。絶版なので図書館でどうぞ。



年長

すてきな三にんぐみ

トミー・アングラー／さく いまえよしとも／やく
偕成社 30 cm 1977年

くろマントにくろいぼうしのこわーいどろぼう三にんぐみ。ある夜、盗んだ小さな女の子から、ためこんだ金銀宝石を何に使うのか聞かれます。さて、どろぼうたちは何をたてしよう。抑揚をつなぐても、リズムカルな文体を子どもたちと楽しむことができます。



年長

かいじゅうたちのいるところ

モーリス・センダック／さく じんぐうてるお／やく
富山房 23×25 cm 1975年

いたずらをして部屋にとじこめられたマックスは、船にのってかいじゅうたちのいるところへ。かいじゅうたちの王様になるけれど、ふとさみしくなってしまう。かいじゅうたちがおどる字のないページは絵をじっくり見ると、リズムが聞こえてくるように感じます。



年長

めっきらもっきらどおんどん

長谷川摂子／作 ふりやなな／画
福音館書店 20×27 cm 1990年

かんたは、めちやくちやな歌をうたって、木の根っこからふしぎな世界にすいこまれてしまいました。3人のおばけとさんざん遊んだあと、ふと心細くなり「おかあさーん」とさけんだら……。画面を縦に横にしながら、楽しくテンポよく読んでいきましょう。



年長

11ぴきのねこ

馬場のぼる／著
こぐま社 27 cm 1967年

11ぴきのねこはとでもはらべこ。とおい湖までニャゴニャゴと出かけます。がんばってつかまえた大きな魚。夜が明けたら食べることにしましたが……。ユーモラスな内容と絵をたっぷり楽しんで読みましょう。シリーズに『11ぴきのねこふくろのなか』など。



年長

ラチとらいおん

マレーク・ベロニカ／ぶん・え とくながやすもと／やく
福音館書店 16×24 cm 1965 年

ラチは世界中で一番弱虫な男の子。犬や暗がりや友達さえも怖いラチは、いつも一人で泣いていました。でもある日、小さな赤いらいおんがやってきて、ラチは少しずつ強くなっていきます。ラチが弱さを克服するようすに共感し、勇気がわく絵本です。



年長

てぶくろ (ウクライナ民話)

エウゲーニー・M・ラチョフ／え うちだりさこ／やく
福音館書店 28 cm 1965 年

雪の中、おじいさんが落としたてぶくろに、ねずみが住みつきました。そこへ、かえる、うさぎ、きつねが次々にやってきて、手袋ははちきれそうになります。動物それぞれの声音を使わず、くりかえしを楽しんで読みましょう。



年少

三びきのやぎのがらがらどん (ノルウェーの昔話)

マーシャ・ブラウン／絵 せたていじ／訳
福音館書店 26 cm 1965 年

三びきのやぎが山の草場でふとろうと、谷川にかかる橋を渡っていきました。橋の下には、気味の悪い大きなトロールが住んでいます。リズムの良いことば、3回のくりかえし、ドキドキする展開が子どもたちをひきつけます。大げさに演じすぎないように読みましょう。



年少

だいくとおにろく

松居直／再話 赤羽末吉／画
福音館書店 20×27 cm 1967 年

大きな川の橋かけをたのまれた大工。代わりに橋をかけた鬼に、名前をあてなければ目玉を取るといわれます。鬼と対決するところはスリリングにテンポよく、最後のページはひと呼吸おいて痛快に読むと、子どもたちは安心します。



年中

三びきのこぶた (イギリスの昔話)

瀬田貞二／やく 山田三郎／え
福音館書店 27 cm 1967 年

子ぶたが家を建てると、オオカミがやってきて子ぶたを食べようとします。ところが最後は……。元のイギリス昔話のままのお話で、大人には残酷に感じることも、子どもたちはちゃんと受け止めて、楽しめます。



年中

おおかみと七ひきのこやぎ (グリム童話)

フェリクス・ホフマン／絵 せたていじ／訳
福音館書店 22×30 cm 1967 年

おなじみのグリムの昔話。元の昔話に忠実なお話と余白を生かした美しい絵の絵本です。ドキドキしながら聞いていた子どもも、「あー良かった」とほっとします。自然に読んで昔話の世界にひたってみましょう。

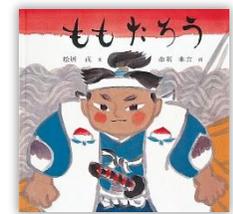


年長

ももたろう

松居直／文 赤羽末吉／画
福音館書店 21×22 cm 1965 年

ももから生まれたももたろうは、いっぱい食べればいっぱいだけ、にはい食べればにはいだけ大きくなりました。美しい絵と独特な擬音語やくりかえしのリズムが心地よい1冊。表紙のももたろうの目が力強く、子どもたちをひきつけます。

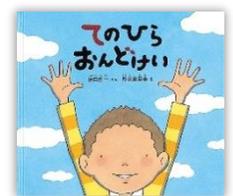


年長

てのひらおんどけい

はまぐちてついち／ぶん すぎたひろみ／え
福音館書店 21×23cm 2008年

お父さんと散歩に出かけた男の子が、自転車や木や遊具など、いろいろなものにさわってみると、温かかったり冷たかったり。太陽の光や物質のもつ特性を感じられる科学絵本です。のんびりした雰囲気と、手のひらの感覚をイメージしながら読みましょう。



年少

じゃぐちをあけると

しんぐうすすむ／さく
福音館書店 24 cm 2009 年

じゃぐちをあけると流れる水。コップにあてると水の風船、スプーンにあてると宇宙船、水は次々に姿を変えます。身近な水から現れるふしぎな形に子どもたちから驚きの声があがります。早く水道のところでやってみたい、と子どもの気持ちをくすぐります。

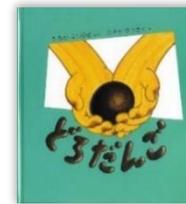


年少

どろだんご

たなかよしゆき／ぶん のさかゆうさく／え
福音館書店 22 cm 2002 年

子どもたちが大好きなどろ遊び。どろをほって水を入れて、かきまぜて、スープやクッキーに。乾いた砂をまぶして、ぴかぴか光るどろだんごも作ります。次は強さくらべ、どれが一番固いかな？簡潔な絵と文章が、わかりやすい絵本です。



年少